

真っ青な空の下、春の日差しが差し込む白樺林の中を一步一步進んでいくと、突然雪一面の広い平原が現れ、その向こうには雪をかぶった山々が雄大な姿を現しました。この山々のふもとには数千年の間人々が生活を営んだ遺跡が見つっています。縄文時代には人々が集まって村を形成し、何世代にもわたる人々の生活があったそうです。人は大自然の中でいかに小さくて、その命はあまりにも

短くて一瞬の瞬きのごとくものと実感させられます。

遠い子どもの頃、何かの書物で一人ひとりの一生は木の葉に書かれていて、決められていると読んだことがありました。その時はこれらの葉がどこにあるのか不明で信じていませんでした。ところが、私が高校生の頃、女性医師が地域医療に貢献するノンフィクション本を読み医者になりたいと思い、医学部に



医界サロン

決められた道

広報委員 齊藤 淳子

合格した時、医者になることに反対していた母が、私が子どもの頃見知らぬお坊様から「この子は医者になる」と言われたという話をしてくれました。その後医者になってから一人のがん患者に出会ったことががん研究に進むきっかけになり、一生の道となりました。がん研究の道にぶつかった時もその度に多くの先生方に助けられ、研究生活を送ることができました。日本で研究ができなくなった時は国際学会でたまたま出会った先生の下、遠くオーストラリアにまで留学し、がん予防ワクチンの研究をしました。留学後も帰るところがなかった私に突然研究する道が開けました。大学生活後、今ではがんの早期発見と予防のため地域医療に貢献することが可能となりました。人の一生は多くの人々に導かれ、決められた道を進んでいるのではないかと感じます。

最近は量子物理学が進み、大量のデータを瞬時に保存し、利用することが可能になり、多くの場面で便利になりました。その中で、人の一生が保存されている領域が宇宙空間にあるという仮説があるようです。もしそうであるなら、将来タイムマシンに乗って過去、未来を行き来できるようになるかもしれません。また人はいつ自分の命が尽きるかも決められていることになり、その命尽きるまで決められた道を進んでいくのかもしれない。一人ひとりの一生が決められた道に沿っていくことがより良い世界をつくっていき、いつか戦争や飢餓がなく、病気の研究が進み治療法が確立し病気からも解放され、みんなが幸せと思える時がやってくるのではないかと思います。

決められた一生、いずれ訪れる命の終わりを思い、私にできることをする毎日です。